

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1770101630		
法人名	金沢福祉株式会社		
事業所名	グループホームよりそい		
所在地	金沢市千木1丁目36番地		
自己評価作成日	令和4年7月27日	評価結果市町村受理日	令和4年9月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(有) エイワイエイ研究所		
所在地	金沢市無量寺5丁目45番地2 サンライズⅢ106号		
訪問調査日	令和4年8月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>コロナ禍のため、活動に制限がありますが、入居者様一人ひとりが、生き生きとした表情の見られるホームをめざしています。畑での定植、収穫、梅干作りなどのなじみの仕事や花壇の花や外気浴、外出先で季節を楽しんでいます。お花見会や夏祭り、文化祭、風船パレード大会などの活動を通して皆さんと一緒に過ごし、入居者様、ご家族、職員みながいきいきと暮らしていけるよう、努力奮闘しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>当ホームは「①人権の尊重 ②自立した生活 ③自然とのふれあい ④地域住民との交流（要約）」を理念として掲げている。利用者が楽しく暮らせるよう、入居時に本人のこれまでの生活、趣味・したい事を伺い、それらも手がかりにしつつ、普段の会話を重ねて本人の意向を把握し、「本人の好きなこと・楽しみ・出来ること」を重視した介護計画を作成して、一人ひとりの思いに沿った支援に取り組んでいる。フロア便り等で利用者個々の暮らしぶりを伝え、家族の意見・要望等も踏まえながら取り組んでいる。日常生活場面では、一方的な声かけではなく、利用者が自己決定できるような声かけを心掛け、本人の思いや希望にそった食事や排泄、入浴等の支援を行っている。外出支援についても、感染予防に努めながら、個々の要望にそって、近隣の散歩やドライブに出かける機会を設け、梅や桜、バラ、ひまわり等季節の花を見に出掛けたりしている。利用者・家族の思いに最後まで応えられるよう、提携医の協力を得ながら重度化・終末期支援にも取り組んでおり、昨年度も1名の看取りを行っている。事業所としての体制も踏まえ、出来る事・出来ない事を家族に具体的に説明し、揺れ動く意向も確認しながら実践し、支援後の振り返りもを行っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
60 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	67 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,42)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：42)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
63 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：40,41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：53)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)]

己	自	部	外	項目		自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容		
I. 理念に基づく運営								
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている		「①人権の尊重 ②自立した生活 ③自然とのふれあい ④地域住民との交流（要約）」を理念として掲げている。理念は入職時に必ず伝え、玄関・各ユニット内の掲示、申し送り時の唱和（毎週月）を通じて、職員への周知を図っています。		事業所理念は入職時に必ず職員へ伝え、その後も毎週月曜日の申し送り時の唱和や玄関・各フロア等職員の目につきやすい場所への掲示を通じて、継続的に職員への周知を図っている。日常業務の中でも折に触れ理念について伝達している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している		通常では、町会の秋祭り、小学校での盆踊り、保育園での行事の参加や地域ボランティアの受け入れを行っていましたがコロナ禍の為中止しています。事業所の文化祭は施設内のみで行い、日常的な買い物も職員のみで行っています。		普段であれば、町会の秋祭り、小学校での盆踊り等への参加や保育園との交流、ホーム行事への招待、毎月の多様なボランティア（歌・踊り、傾聴等）の受け入れ等を通じ、地域との交流を図っていた。現在は実施できていないが、散歩の際の近隣住民への挨拶やホーム内でのイベントを通じた各フロア間の交流は続け、大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている		日常の散歩で地域の方と出会ったときに挨拶などの交流を行っています。		/		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		偶数月に開催。その都度、行事・状況を報告し、市役所・地域包括の皆さんと話し合い意見をいただいています。の内容は各階入口に掲示。現在コロナ禍のため、ご家族、地域の代表は不参加。		参加メンバーは、通常3名の利用者家族（各フロア代表）、町会長等地域の代表、市・包括担当者、事業所職員としている。今年度より参加者を限定し、2ヶ月に1回対面での会議を再開している。会議では活動報告後に質疑応答・意見交換を行い、要望・助言をサービスの向上に活かしている。議事録は各フロア入口に掲示している。		議事録を家族へ送付されることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる		金沢市主催の研修への参加、運営推進会議での情報交換を通じ、市担当者との連携強化を図っています。		日々の問い合わせや相談、運営推進会議での情報交換、市主催の研修への参加等を通じ、市担当者との連携強化を図っている。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルに従い、外部研修や施設内の勉強会を行い職員個々の意識付けと指導をしています。毎月の会議内に身体拘束について話し合う時間を設け、身体拘束につながらないケアに取り組んでいます。	毎月のフロア会議や合同会議において身体拘束についての確認、話し合いを行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉の拘束等につながりそうな場面があれば、他の言い方等を話し合い、改善に努めている。年間計画に基づき、身体拘束をテーマとする勉強会も行っている。	身体拘束についての研修や話し合いの議事録を整備されることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束マニュアルに従い、外部研修や施設内の勉強会を行っています。事例は無いが、ケースに対しては身体拘束マニュアルに従い、情報の共有化、問題点の明確化を行い防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な人に対して、活用できるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類内容を説明後、不安や疑問点を尋ね再度説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	フロア便りで個々の暮らしぶり、カンファレンス後の報告書にて生活の変化をお伝えしています。コロナ禍のため制限内での面会ですが、その都度ご意見、要望をお聞きしています。1階玄関に、ご意見箱設置、行事などの写真展示。	家族の意見・要望を引き出せるよう、年4回、フロア便り（写真、職員のコメント）で利用者個々の暮らしぶりを伝えている。また3ヶ月毎にケアプランの実施状況や日常生活行為の状況等も報告している。制約はあるが面会に来所した際には、職員から働きかけ、家族の相談・心配事に応じている。メール等でも情報交換出来るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア一会議・合同会議等で、意見や提案を聞く機会を設け、反映させています。管理者が各フロアを回り、各職員の意見を聞けるようにしています。	管理者は、普段から職員の声に耳を傾け、様々な意見を聞いている。又、フロア会議・合同会議の際には職員が自由に意見交換出来る環境を整え、ホームの運営面（利用者支援、業務改善、行事企画等）に活かしている。	

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	把握し向上心を持って働けるよう努めています。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全員が研修受講できるよう配慮し、報告書の提出をし回覧しています。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、コロナ禍のため、行っていません。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の傾聴、前サービスでの面談、ケアマネージャーからの情報から、安心して生活出来るよう努めています。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	傾聴する機会を持ち、安心できるよう努めています。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	カンファレンスにおいて本人、家族の意見を取り入れ、必要とするニーズを考え話し合いにより対応しています。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬意をもち、一人ひとりの個性を活かし、本人の出来ることできないことを理解し皆で協力しながら行っています。互いに「ありがとう」を言える環境を築いています。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やフロアお便り、報告書で近況を報告。要望を聞く機会としています。面会時に窓越しで面会を行い日々の生活写真にて様子を伝えています。		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	過去の話に耳を傾け、大切にしてきた人や場所を把握し関係が続くよにしています。コロナ禍のため、面会は行えていませんが、大切な家族との繋がりが途切れないよう、お便りや報告書、玄関での写真展示をしています。他の階との交流（クラブ・趣味活動）を通じ、新しい関係もつづられています。	これまでのように家族や馴染みの場所等との関係継続の機会を多く持ててはいませんが、便り等を通じて家族に近況を報告し、また本人からも昔の話を伺う等して、つながりの継続を支えている。事業所内のできる畑作業や漬物づくり、特技の発揮等の機会を設け、これまでの習慣も大切にしている。フロア間での日常的な交流、クラブ・趣味活動を通じ、新たな馴染みの関係にもつなげている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来ることを共有し、孤立せず支え合うご近所付き合いのような関係を築いています。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話や病院への見舞いやケアマネジャーを通じての継続てきな関わりを大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常での利用者の会話や表情、行動をご家族に伝え共有し、希望に添える様努めています。入居時に本人の趣味・したい事を伺い、日頃の支援に活かしている。思いを引き出せるよう、入浴時や夕食後の個別の時間を大切にしています。	入居時に本人のこれまでの生活、趣味・したい事を伺い、それらも手がかりにしつつ、普段の会話を重ねて本人の意向を把握し、日々の支援に活かしている。利用者の思いを引き出せるよう、1：1の場面（入浴時、就寝前等）で本音を聴くようにしている。利用者の「思い（○○したい等）」を聞いた場合は「」書きで記録に残すように心掛けている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らしを本人、家族から聞き取り、紹介資料を参考にして、生活に生かせるよう関わっています。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で、好まれる過ごし方や、残存能力の確認、得意に気づけるよう関わっています。		
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで気付きを話し合い、本人の好きな事・楽しみ・出来る事を中心とする介護計画を作成しています。3か月ごとにモニタリングを行い見直しに活かしています。	ライフサポートの様式を用い、本人の好きな事・楽しみ・出来る事を中心とする介護計画を作成している。支援内容は具体的に明示し、本人の思いに沿った支援に取り組んでいる。計画内容が現状に即しているかを3ヶ月毎にフロア会議で話し合い、モニタリングや見直しに活かしている。本人への説明にも努めている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々具体的な内容・行動・家族の関わり、全員の記録を随時しています。特に変わったことがあれば職員全員に申し送っています。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望に応じた支援をしています。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため、ボランティアの受け入れは中止しています。		
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に馴染みの病院への継続受診、提携医による訪問診療を選択できます。家族の希望を確認し情報を共有することで、健康管理や医療支援につなげています。	馴染みのかかりつけ医への継続受診、又は提携医による訪問診療を選べるようになっている。提携医とは24時間の連携を構築している。かかりつけ医・専門医への受診は原則家族に依頼し、その都度必要な支援（提携医が紹介状交付、職員が文書で情報提供等）を行っている。	

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護師が情報を共有することで、健康管理や医療支援につなげています。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院する際のストレスや負担を軽減するために情報提供に努めています。家族の希望を聞きながら医療機関と連携を図り、早期退院出来る様努めています。		
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状況の変化に応じて連携医・家族と話し合い、方向性を定め、連携医・訪問看護の協力を得ながら、重度化・終末期支援を行っています。終末期支援の際は出来る事・出来ない事を家族に具体的に説明し意向を確認しています。	提携医や訪問看護の協力を得ながら、重度化・終末期支援を実践しており、昨年度も1名の看取りを行った。利用者の身体状況の変化に応じて主治医・家族と話し合い、今後の方向性を定めている。終末期支援の際は、事業所としての体制も踏まえ、出来る事・出来ない事を家族に具体的に説明し、揺れ動く意向も確認している。支援後の振り返りも実施している。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に関する研修参加や訓練を定期的に行っています。		
35	(13) ○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時対応マニュアルがある。マニュアルに従い、勉強会を行っています。緊急時対応マニュアルを整備している。急変時は連携医に相談し、指示を仰げる体制を整えています。	緊急時対応マニュアルを整備している。年間計画に基づき、職員が講師を担い緊急時対応をテーマとする勉強会を行って、初期対応手順やマニュアル内容を振り返る機会を設けている。利用者の異変が想定される場合・急変時は提携医に相談し、指示を仰ぐことができる体制を整えている。	
36	(14) ○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力医療機関、介護老人福祉施設との支援契約を行っています。	複数の提携医（訪問診療、随時の相談、対応可）や協力病院による医療支援体制を確保している。又、介護老人福祉施設とは契約で支援体制を確保している。	

己自部外	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	各階1名の夜勤者の配置。建物内の計3名で内線を使用して対応。又、緊急連絡網によるフロアリーダー・提携医(24時間体制)への相談体制や近隣在住職員への応援体制があります。緊急時連絡表を使い、近隣職員に連絡をとり緊急時の対応を行っています。	各ユニット1名の夜勤者を配置し、夜間体でも建物内に計3名の職員が勤務し、相互に協力しあう体制となっている。又、緊急連絡網によるフロアリーダー・提携医への相談体制や近隣在住職員への応援体制が整えられている。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルに従い、外部研修や施設内の勉強会、避難訓練(年火災2回、災害1回)を行い職員個々の意識付けと指導をしています。地域との連携のため地域の避難訓練にも参加しています。	災害対応マニュアルを整え、年間計画に基づく勉強会で内容周知を図っている。年2回、リスクが高い夜間帯での火災を想定した総合避難訓練を実施している。内1回は消防署員の立ち会いのもとで行い、専門家の総評・助言を今後活かしている。訓練時は実際に通報装置を使用したり、水消火器による消火体験を行っている。水害の発生を想定した訓練も実施している。非常持ち出しファイル(内服情報等)を整備し、備蓄品(非常食、生活用品、救急セット等)も複数箇所に保管されている。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	災害時マニュアルに従い、地域との連携を取り避難誘導を行います。非常持ち出しファイル(内服情報等)や備蓄品、救急セット等も準備しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「人権の尊重」の理念を基に、一人ひとり個人の人格を尊重した接遇を心がけています。言葉遣いや対応、日常生活場面で自己決定できるように働きかけています。	「人権の尊重」を理念にも明示し、言葉遣いや対応に配慮している。日常生活場面では、一方的な声かけではなく、利用者が自己決定できるような声かけを心掛けている。又、トイレ誘導時は他者に悟られないように言葉かけを工夫したり、申し送りは事務所内で行う等、プライバシーにも注意を払っている。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事のメニューや洋服など、希望や訴えを多く取り入れて選択できるよう配慮しています。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを把握し、保てるよう努めペースに合わせて側で業務を行っています。		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人、家族の要望に合わせ訪問カットを定期的に行っています。		
44 (19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と献立・買い物・調理等一緒に行っているため、各階別々の献立となっています。米研ぎや盛り付け、洗いなど役割分担をし、畑でとれた野菜の利用や梅干し作りなど経験を生かした献立で調理しています。行事食、クラブでの喫茶など行っています。	各フロアごとに利用者の好みや食べたい物を話し合い、3フロア別々の献立で毎日の食事づくりを行っている。家事が得意な方には米研ぎや炒め物調理、盛り付け、味見、茶碗洗い等の役割を担ってもらっている。畑で採れる野菜も活用している。又、利用者の知恵・経験を活かせる場面（沢庵漬け、梅干し、おはぎ作り等）や季節毎の行事食（お節料理・赤飯等）、喫茶を楽しむ機会も設けている。	
45	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた支援をしています。		
46	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施しています。		
47 (20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本としています。排泄表を利用し、排泄間隔、サインで個々に合わせ対応しています。夜間はポータブルトイレの活用など個別に対応しています。	「トイレでの排泄」を基本とし、誘導が必要な場合は個々の排泄間隔・サインを掴み、さりげなくお誘いの声をかけている。夜間帯は利用者の身体状況や希望に応じて、個別対応（安全・安眠を優先しオムツ着用、ポータブルトイレの活用等含む）を図っている。オムツは事業所にて準備している。	
48	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を利用し、水分、運動また、薬剤師と連携し薬剤で個々に応じた調整をしています。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせ、羞恥心や恐怖心に配慮しつつ、くつろいだ気分で入浴出来る様心掛けています。	日曜日以外は毎日お風呂を沸かし、平均週2回、利用者の要望（湯加減、長湯、ジェットバス等）に沿った入浴を支援している。お湯の変化を楽しめるよう、数種類の入浴剤を用いている。入浴を拒む場合は無理強いせず、対応を工夫（言葉かけの仕方、タイミングを考慮、別の日に改める等）している。	
50	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠状態を確認し、生活リズムと環境に慣れて頂けるよう配慮しています。		
51	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の指導や服薬状況、症状等検討し合っています。		
52	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人に合わせ役割を分担したり共同で楽しむことが出来るよう支援しています。		
53	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、買い物は行えていませんが、散歩等希望にそって出かけられるよう支援しています。	感染予防に努めながら、近隣の散歩やドライブに出かける機会を設け、梅や桜、バラ、ひまわり等季節の花を見に出掛けている。天気が良い日には、玄関前のベンチで日向ぼっこをして過ごすこともある。これまでのような買物や普段行けない場所への外出（県庁展望台、暮らしの博物館、倶利伽羅不動尊等）は現在、控えている。	
54	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理可能の方は個人で行い、本人・家族の要望も取り入れ力量に応じています。		

己	自	部	外	項 目	自己評価	外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55				○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話をしたり手紙のやり取りができるよう支援しています。ご自身で電話をかけることはできない方ですが、携帯電話を持ち、家族から直接ご連絡がある方もいらっしゃいます。		
56	(23)			○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関・廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・廊下・居室等に生活感を取り入れるよう工夫し居室の状況に応じて、テレビの音量・温度・日差し等にも注意しています。	事業所全体として生活感のある空間づくりに努めている。窓辺に観葉植物を置いたり、玄関先で育てた季節の花、季節ごとの作品等をホーム内に飾ったりしている。共有空間の温度・湿度管理に配慮し、冬季は床暖房・加湿器を使用している。又、エアコンの風が直接利用者にあたらないように配慮している。	
57				○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思いおもい自由に過ごせるようにしています。		
58	(24)			○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人らしい生活ができるようなじみの物を持ってきて頂くようにしています。	居室で居心地良く過ごせるよう、自宅で使い慣れた物（テレビ、携帯電話、家具等）や安心出来る物（家族の写真、趣味道具等）を自由に持ち込んでもらっている。	
59				○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室・トイレ等迷いやすい方には目印やわかりやすい表示をしています。		